

## 一 評論

### 【解答例】

- (一) (1) 魅力 (2) 促(し) (3) 示唆 (4) 派生 (5) 罰(し)
- (二) 大人が子どもと目を合わせ、結果的に視線誘導してしまう行動。(29字)
- (三) 個人的好みとは別次元の客観的・普遍的価値基準が存在すること。(30字)
- (四) 進化の過程で同時に獲得されていなければならない相補性を持つ。(30字)
- (五) 教育する心の働きと教育により学ぶ心の働きを進化の過程で同時に獲得して、生物学的に「公的」で規範性を持つ世界を意識し、「私的」で利己的な世界との折り合いをつけられるようになった動物。(90字)

### 【解説】

- (一) 易しい。完答が望ましい。
- (二) ポイントは2点。大人が子どもと目を合わせることに、その上で大人が意図せず視線を移すことが、結果的には子どもへの「教育」になっていることが踏まえられた答案になっていればよい。その際大人自身に子どもを特に「教育」するつもりはなかったことが分かるような表現をする必要がある。
- (三) 実験結果を受け、筆者が「自分の好みとは別次元の客観的・普遍的価値基準を、この年齢の子どもは大人のふるまいから察し、そしてそれを他者に伝えようとしているのです」と述べている部分を踏まえる。「自分の好み」とは別に「客観的・普遍的価値基準」が存在することを指摘できればよい。
- (四) 傍線部以後の「教える能力」「教わって学ぶ能力」はどちらが先に獲得・派生したとは考えにくい、との筆者の主張が「教育する心の働きと教育によって学ぶ心の働きは、進化の過程で同時に獲得されていなければならない相補性がある」とまとめられているのを踏まえる。
- (五) 設問の「どのような動物」という表現が、本文最後の「ヒトはおそらく生物学的に『公的』な世界を意識し、『私的』な世界との折り合いをつけようとする動物なのではないかと思わされます」という文と対応している。したがってこの文を解答の軸として、「公的」な世界とはこれまでの問いを基に「規範性」を持つ世界、「私的」な世界とは最終段落に人間がどうしようもなく「利己的」であるとの指摘を踏まえ「利己的」な世界と説明し、さらに公私の折り合いがつけられる理由として人間が進化の過程で「教える能力」「教わって学ぶ能力」を身につけてきたことを挙げる。

## 二 小説

### 【解答例】

- (一) (1) 前触れもなく突然に (2) 地味で着実な、長い年月をかけた勉強
- (二) 自分が乗っている夜行列車は、時間の断片を拾ってつないでいるのだという心が躍るような気づき。(45字)
- (三) なじめないパリを離れ、懐かしさを感じる場所を求める強い願望。(30字)
- (四) 時間の断片を拾い集めまっすぐにつながるだけではなく、時間が具体性や人間の世界といった異質な要素と有機的に結びついた物語。(60字)
- (五) みな若いときに理解しているはずの物語のあり方を老いた今知り、興奮しながら慌てている様子。(45字)

### 【解説】

- (一) 辞書的な意味を答えるのが無難だが、文脈に配慮し、多少誇張した表現でもよいだろう。
- (二) 列車が時間にしがたって受動的に走っているのではなく、むしろ能動的に時間の断片を拾ってつないでいるのだという指摘と、そのことに「わたし」が気づいたことの高揚感を説明できればよいと思われる。
- (三) パリは水が合わないから記憶の上で故郷のようにも感じられたイタリアに行きたいと強く感じていることを示した「帰りたかった」という表現だと考えられるが、字数制限が非常に厳しい。パリが嫌い、ということと、望郷にも似たイタリアへの思い入れを説明できればよいだろうが、イタリアが実際にではなく擬似的な故郷であることにも配慮した表現が求められる。
- (四) 「縦糸」「横糸」を比喻と見なし解答に使わない方がよいのか判断に苦しむ。この解答例では用いないで説明することとした。「縦糸」についてはこれまでの問いから、時間の断片を拾い集めてまっすぐな線にすることだという主旨で論述することは難しくない。一方「横糸」については縦糸以外の「異質な要素」であり、「いい物語」とは両者がきちんとかみ合ったものであるというイメージはできるが、物語を「人間化」ということを言い換えるのが厄介。ここでは人間化された物語を一つの有機体として説明することとした。
- (五) 他の人が若いときから知っていることに自分は老いてから初めて気づいた時の様子を比喩的に表現している箇所であるが、これまでの問いから、他の人が知っているのは「ものがたる」というのがどういうことかであるという類推はしやすい。問題は「息せききって走りまわる」をどう説明するかである。本例ではここには複数の感情、すなわち「今ごろ気づいて慌てている」「ようやく気づけて嬉しさで興奮している」という気持ちが混在した表現であると捉えた。

### 三 古文

【解答例】

- (一) (1) 平安京と福原京の優劣を議論するのにふさわしい人たち  
(2) 物事をわきまえて知っている人
- (二) 平安京と福原京とどちらが優れているか話し合いをして決めよう
- (三) 長方の、福原に都を移した清盛の怒りを怖れず彼だけが遠慮なくさんざん福原の悪口を述べた言動。(45字)
- (四) 過去の歴史を振り返ると、人は失政を自分では認められないので、清盛が議論をさせたのは、実は遷都を後悔していて、その失敗を誰かに指摘して欲しいからだと判断したため。(80字)
- (五) 唯一清盛の真意を見抜いたことへの称賛。(19字)

【解説】

- (一) (1) 「さもあり」は「いかにもその通り」「もつともだ」の意。ここでは平安京と福原京の優劣を論じさせようとして、平安京の「さもある人」が呼ばれているので、議論の参加者としてふさわしい人物を指すと考えられる。  
(2) 「ものおぼゆ」には「意識がはっきりする」意もあるが、ここでは「物事をわきまえ知る」の意。
- (二) 易しい。「いづれか」は「どちらが」、「言ひさだむ」は「議論して決める」の意。「まされる」の「る」は存続の助動詞、「せむ」の「む」は意志の助動詞。
- (三) 他の参加者が福原遷都を決断した清盛を怖れて本音を言えない中、長方一人だけが「少しもところを置かず(＝遠慮せず)、この京をそしりて、ことばも惜しまずさんざんに言ひけり」とあり、傍線直後で「さばかりの悪人の『いみじ』と思ひてたてたる京を、さほどにはいかに言はれしぞ」と上達部が述べていることから、長方は福原京の悪口と平安京のよさの両方を語ってはいるが、解答としては福原京の悪口を言い立てたことにだけ触ればよい。
- (四) 福原遷都に対する長方の批判が「入道の心になはん」(清盛の気持ちに添っているだろう)と長方が考えた理由は、傍線部直後の「そのゆゑは、…」以降で述べられているので、それを要約する問題。
- (五) これまでの問いを踏まえ、清盛の内心を見抜けたのが長方だけであることを説明し、さらに当時の人々がそのことに対し称賛の念を抱いたことを論述すればよい。

## 四 漢文

### 【解答例】

- (一) (1) あざなは (2) かつて
- (二) 試験の合格者名簿に孫貫の名が載っているかどうかを尋ねたところ
- (三) 貫が夢のお告げを信じ、名を試験の合格者である汴に変えたこと。(30字)
- (四) (ウ) いまだもってしんととなさずといえども  
(エ) ただせいゆうのがくしにしかざるのみにして
- (五) (1) 人間の出世欲の限りのなさに対する呆れ。(19字)  
(2) 孫汴が、翰林学士になれるという夢を見たときには喜んでいたが、実現すると地位への不満を漏らしたため。(49字)

### 【解説】

- (一) 基本。
- (二) 「其れに孫貫有りや否やを問ふに」と書き下す。文あるいは句末に「否」の字が来ると、「～や否や」と読んで「～かどうか」と解釈することが多い。
- (三) 夢のお告げによれば試験の合格者名には孫貫の名はなく、孫汴の名があったので、孫貫は合格のために自身の名を汴に変えたことを説明する。
- (四) (ウ) 逆接を表す「雖」(いえども)、再読文字「未」(いまだ～ず)、「以<sub>レ</sub>A為<sub>レ</sub>B」(Aを以てBと為す、AをBにする、AをBだと思ふ)のAが省略された形に気づけるかがポイント。「まだ信用できないと思ったが」の意。  
(エ) 限定を表す「但」(ただ～のみ)、比較を表す「不如」(しかし)がポイント。「清優」はなじみの薄い語であるが、注も参照すると、傍線部では「参政は翰林学士よりも学識が高い者とはみなされない」ということを述べていると考えられる。
- (五) (2) 孫汴は、夢で将来翰林学士になれるというお告げを聞いてその時はたいへん喜んでいたが、実際に夢が叶ってみるとその地位では不満で仕方がない、と述べていたことが筆者による感想の根拠となる。  
(1) (2) を踏まえ、孫汴に代表される人間の出世欲の限りなさを指摘した上で、そのことに対し呆れや嘆きといった感想を筆者が抱いていると説明すればよい。